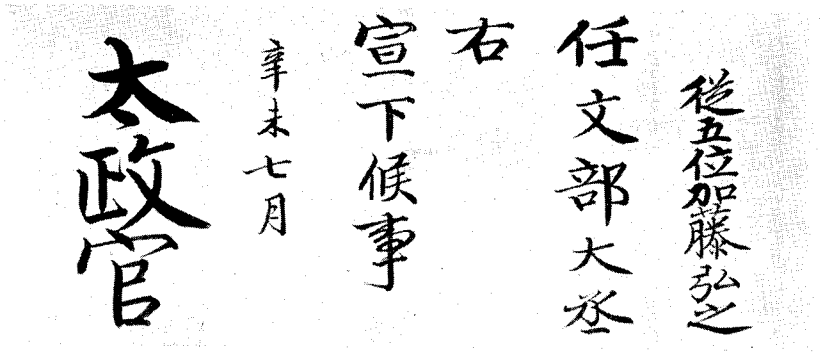
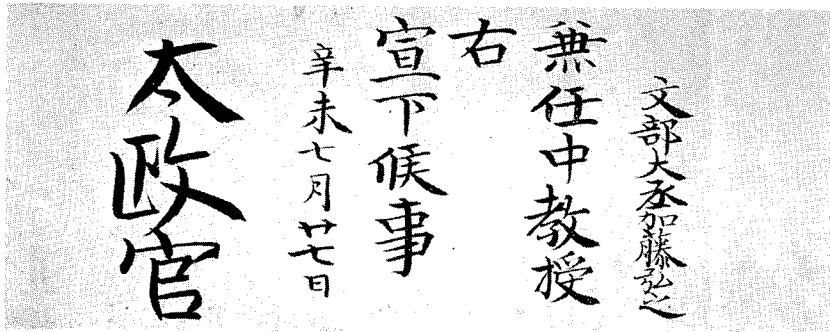


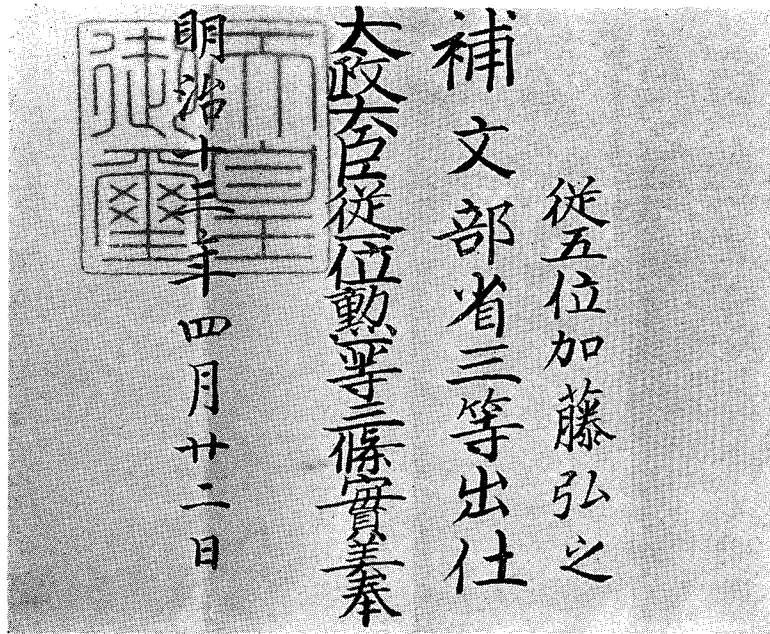
1 明治2年7月18日 39.4×54.1cm



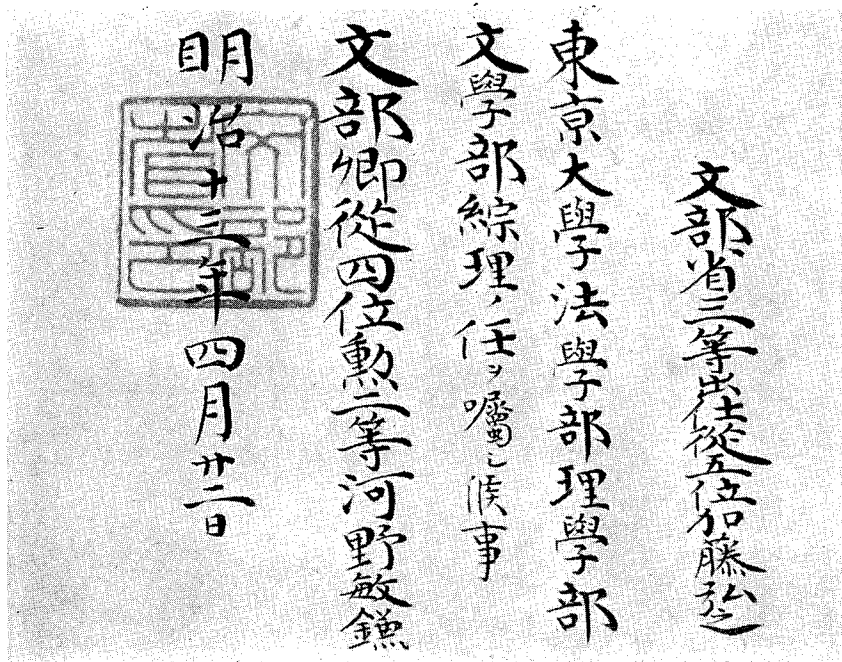
2 明治4年7月 21.2×57.0cm



3 明治4年7月27日 21.2×57.0cm



4 明治13年4月22日 22.8×30.7cm 菊紋透



5 同 上 23.7×30.1cm

文部省等出仕加藤弘之
 任東京大學總理
 太政大臣位勲等三條實美奉
 明治十四年七月六日

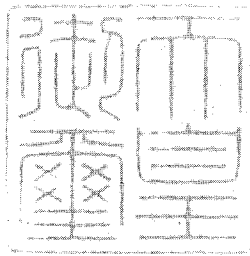
6 明治十四年7月6日 22.9×30.7cm 菊紋透

東京大學總理加藤弘之
 年俸四千貳百圓
 下賜候事
 明治十四年七月六日
 太政官

7 同 上 22.7×30.9cm 「太政官」透

元老院議官從三位勳等文學博士加藤弘之

任帝國大學總長



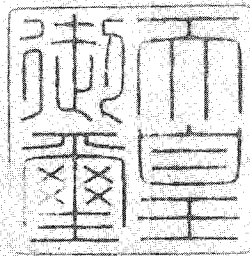
明治廿三年五月十九日

內閣總理大臣從三位勳等伯爵山縣有朋奉

8 明治23年5月19日 22.8×30.8cm 菊紋透

帝國大學總長從三位勳等文學博士加藤弘之

敘勅任官等賜上級俸



明治廿三年五月十九日

內閣總理大臣從三位勳等伯爵山縣有朋奉

9 同 上 22.8×30.9cm 菊紋透

帝國大學總長文學博士加藤弘之

依願免本官

明治廿六年三月卅日

内閣

10 明治26年 3月30日 22.8×31.0cm 桐紋透

東京府士族

元帝國大學總長

三位勲二等文學博士加藤弘之

金百九拾貳圓七拾六錢七厘

右官吏恩給法第七

條ニ依リ之ヲ給ス

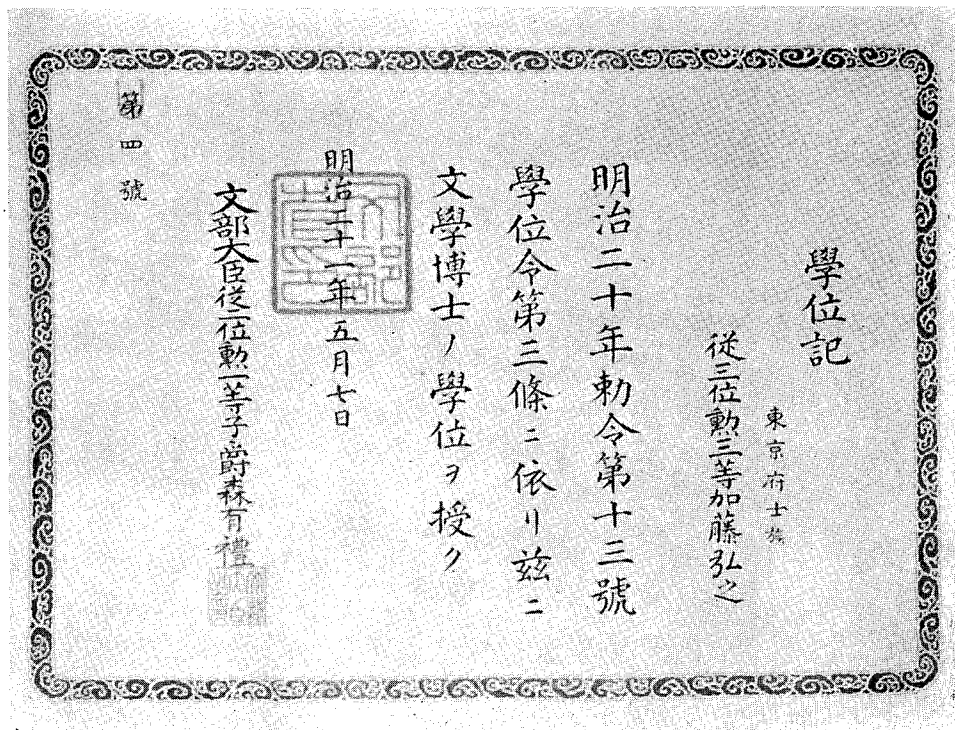
明治廿六年五月廿二日

内閣

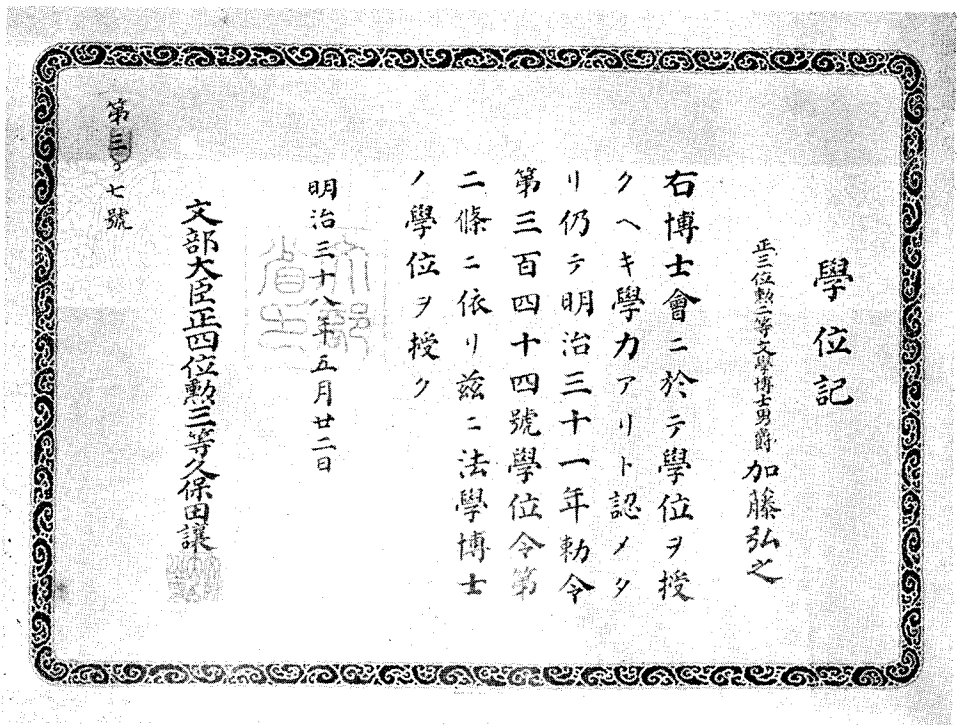
11 明治26年 5月22日 22.7×30.9cm

正三位勲三等文藝博士加藤弘之
 帝國大學令第十三條ニ依リ
 勅旨ヲ以テ東京帝國大學名譽
 教授ノ名稱ヲ授ク
 明治三十四年三月十八日
 内閣總理大臣侯爵伊藤博文

12 明治34年3月18日 22.7×30.8cm 桐紋透



13 明治21年5月7日 38.5×51.6cm 「文部省」透
 クリーム色地 もえぎ色枠



14 明治38年5月22日 38.6×52.0cm 「文部省」透
卵色地 黒色枠

加藤弘之（一八三六一一九一六）の官歴は万延元年（一八六〇）閏三月の蕃書調所教授手伝に始まり、旧幕府下—明治政府下において少しずつ途切れながらも五十六年にわたっている。東京大学が保存するその履歴書には一〇〇を越える発令事項が記されているが、そこには幕下での職歴は掲記されないため、実際には蕃書調所—開成所、御目付、大目付などに関係する事項、および履歴書で欠落している維新後の事項等が書き加えられなければならない。

ここに掲載した加藤の辞令一二点は、昭和五三年七月に百年史編集室が加藤家から寄託を受けた四六六の辞令のうち、東京大学に特に関係あるものである（全点に関する目録は別に作成を予定）。内容は辞令に記されたとおりであるが、通看して気が付くのは(1)蕃書調所—開成所関係、(2)明治一〇年の東京開成学校—東京大学法理文三学部総理嘱託、(3)一九〇一年の東京大学総理辞任などの辞令が無いことである。(1)については現在のところ詳細不明ながら、(2)はこの時期加藤が官員でないためか先の履歴書にも発令者について「田中文字部大輔手簡」と注記があり、さらに報酬についても一箇月金幾円「贈賂」として給与になっていたなどの事実から、公式の辞令は出なかつたと推測される。(3)については元老院議官に任ずる旨の辞令だけが出たと思われるが、この辺の事情は二六年の帝大総長辞任とはかなり異なっている。

13、14の学位記は昭和五〇年一月に百年史編集室が同様に加藤家から寄託を受けたものである。